

## 「私が消防団に入った理由、そして今…」

鏡野町消防団 あげは隊 団員 中西奈緒子

皆さんこんにちは。鏡野町消防団 女性消防隊 あげは隊の中西と申します。  
突然ですが、皆さんは救急車を呼んだ事がありますか？倒れた人に遭遇した事がありますか？家族が倒れたら一番に何をしたら良いと思いますか？

日常生活の中で起こっては欲しくないけれども、起きてしまうかもしれない事  
に対処できる人でありたいと思いませんか？

私は娘が 7 カ月の頃、主人の運転する車で、娘と私と 3 人でドライブをしていました。急に主人が何か驚いたような声で叫ぶので、後ろのチャイルドシートの娘を見ると、ひきつけを起こして、白眼をむいてカチカチと痙攣していました。主人も私も慌ててしまい、そのあたりの記憶が曖昧なのですが、運悪く、携帯電話が圏外になってしまうような場所だったので、とにかく『どこかの家に入って!!!』と叫んでいたことは覚えています。そして飛び込んだ家で『電話を貸して下さい!!!救急車を呼んで下さい!!!お願いします!!!』と泣きながら叫びました。

そのお宅には高校生の男の子しか居なかったのですが、すぐに 119 番に電話をしてくれました。その後も私と娘を励まし続けてくれ、本当にありがたかったです。しかし、母親の私はと言うと…娘を抱きかかえ、揺さぶり、娘がどこか遠くへ行ってしまうような気がして、必死に大きな声で名前を呼び、叫んでいました。

救急車で病院に運ばれ、診察の結果、娘は急な高熱による熱性痙攣で、しばらく病院で経過観察をし無事に帰宅できました。

後から救急隊員の方に聞いたのですが、どうやら私は、やってはいけない事ばかりをしていた様でした。親として情けないやら悔しいやら…

それから数年後、縁あって、消防団への誘いがありました。

当初は、私に何が出来ると言うのか…と乗り気ではありませんでした。しかし、熱い気持ちを持った消防団員の方からの『男性とは違う目線で、女性として、母として出来る事があるのではないか』との誘いを会うたびに受け、あの熱性痙攣の経験を思い出したのです。

あの時、何かを知っていれば…

もしかしたら、何か出来る事があるのかも…母として何か得ておく必要がある

のかも…と入団に向けて前向きに考え始めました。

その中で、ある日応急手当普及員についての話を聞きました。それが私を一気に入団へと動かしたのです。

『一家に1人でも、救急法を習った事のある人が居たら助かる命もあるでしょうね』との言葉が胸に刺さったのです。

有難い事に、周囲にも数名の入団希望者がおりました。医療従事者で、仕事以外で地域に貢献したいと思っていた人、誰かの役に立ちたいと思っていた人、皆同時に入団を決意しました。

初年度の大きな活動は、応急手当普及員講習の受講、資格取得となりました。14名中5名が受講し、資格を取得し、現在では年に数回、西消防署の方々と一緒に講習会に出向いております。

また、男性団員に混ざり、初めての規律訓練にも参加しました。大きな声での号令、機敏な動作に戸惑い、頭の先から足の指先まで緊張するという体験をさせて頂きました。

そして、昨年からは、全国女性消防団員活性化大会にも参加させて頂き、参考になる事ばかりで、今後やっていきたい事、やらなければならない事が団員の中でも明瞭となって来ました。

その中で、今年度初めて取り組んだのが、敬老会での啓発活動です。地域の敬老会で、このようなものをお配りさせて頂きました。万が一の時に慌てず119番に電話が出来るようにとの思いを込めて作りました。そして、保育園での防火パレードにも参加させて頂き、園児と一緒に地域をまわり、手作りの紙芝居を通じて防火啓発も行いました。

今後も、防災教育活動、初期消火のための消火器の正しい使い方の実践等、使命を形にし、行動を起こして行ける様、計画しています。

鏡野町の女性消防隊の活動は、まだまだ皆に知られておりません。実際、まだまだ手探り状態で、未熟なのが現状です。しかし『男性とは違う目線で、女性として、母として出来る事があるのではないか』を忘れずに、今後も活動の場を広げ、皆に活動を知って頂きたいと考えております。

現在では女性消防隊で集まる機会も増えました。出来る人が出来る時間に、出来る事をやっていこう！と一致団結し、前に前に進んでおります。

皆で同じ方向を向き、鏡野町の女性消防隊は更に更にパワーアップします！  
ご清聴ありがとうございました。